

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 ローマイヤ株式会社  
 コード番号 2893 URL <http://www.lohmeyer.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

上場取引所 東

(氏名) 柳原 広伸  
 (氏名) 野口 一世

TEL 0287-65-3500

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	7,334	—	90	—	97	—	96	—
20年3月期第3四半期	5,819	—	8	—	9	—	1	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	3.11	—
20年3月期第3四半期	0.05	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年3月期第3四半期	4,662	—	1,438	—	30.9	—	46.11	—
20年3月期	2,537	—	1,318	—	51.8	—	42.11	—

(参考)自己資本 21年3月期第3四半期 1,438百万円 20年3月期 1,314百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	0.00	0.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,787	34.0	△17	—	△7	—	△15	—	△0.48

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

(1)期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 — 社(社名) 除外 — 社(社名)

(2)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3)四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

①会計基準等の改正に伴う変更 有

②①以外の変更 有

(注)詳細は、3ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。」

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 31,337,000株 20年3月期 31,337,000株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 143,162株 20年3月期 129,243株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 31,201,146株 20年3月期第3四半期 31,215,127株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等につきましては、3ページ「定性的情報」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

(2)当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライム問題に端を発した金融市場の混乱から実体経済にも影響を及ぼし、景気後退が一段と鮮明になり、企業業績の悪化が顕著になってまいりました。また、雇用環境の悪化や個人消費の低迷など、経営環境は一段と厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社グループは、平成20年10月1日に、親会社であるスターゼン株式会社のハムソーセージ・デリカ販売事業を承継し、当社に営業部を設置いたしました。これにより、加工食肉製品やデリカ商品の多様化を図り、生産部門と一体となって物流業務を集約しコストの削減を進め、栃木・埼玉両工場の生産設備の増強や省力化を目的とした投資を積極的に進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間では、売上高は73億34百万円（前年同期比26.0%増）となり、また、営業利益は90百万円（前年同期利益8百万円）、経常利益97百万円（前年同期利益9百万円）、四半期純利益96百万円（前年同期利益1百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間の事業の種類別の業績は次のとおりです。

#### ①加工食品事業

食肉加工品の売上高につきましては、歳暮ギフトは残念ながら前年を下回る結果となりましたが、業務用ソーセージや年末商材などが好調で、58億27百万円（前年同期比10.1%増）となりました。その他惣菜等につきましては、おせちやオードブルなどが大幅に伸びたことに加え、営業部門の譲受けもあり、売上高は15億4百万円（前年同期比188.5%増）となり、加工食品全体の売上高は73億32百万円（前年同期比26.1%増）となりました。

#### ②その他事業

不動産の賃貸料収入のみで、売上高は2,160千円（前年同期比21.3%減）であります。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は46億62百万円で、前連結会計年度末と比較して21億24百万円増加いたしました。資産増加の主な要因は平成20年10月1日に親会社のスターゼン株式会社より営業部門を譲受けしたことに伴う資産の買取や年末の販売増による売掛金の増加などによるものであります。

負債は、原料の仕入増や年末の経費増などにより買掛金や未払金が増加し、当第3四半期連結会計期間末は32億23百万円で、20億4百万円増加いたしました。

純資産は当第3四半期純利益などで1億19百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末は14億38百万円あります。

#### （キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、資金という）は85百万円で、前連結会計年度末と比べ41百万円増加いたしました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は6億4百万円となりました。主な要因は売上債権の大幅な増加などによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は2億64百万円あります。主な要因はスターゼン株式会社からの営業譲受けに伴うたな卸資等の買取などによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は9億12百万円あります。主な要因はスターゼン株式会社の資金管理システムを利用した短期借入金の純増額等によるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

第4四半期につきましては、消費者ニーズに沿った商品の提供を積極的に行うことで売上を拡大し、栃木・埼玉両工場では生産効率を向上させ原価低減を図るとともに、全社一丸となって経費の削減に努めてまいりますが、歳暮ギフトが前年を下回ったことや、今後、景気の後退で経営環境は厳しさが予想され個人消費の低迷が続くと思われるので、平成21年3月期の連結業績の予想を、売上高97億87百万円、営業損失17百万円、経常損失7百万円、当期純損失を15百万円に修正するものであります。

詳しくは、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日）より、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

##### ② 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、商品・原材料は個別法による原価法、製品・仕掛品は先入先出法による原価法、貯蔵品は最終仕入原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、商品・原材料は個別法による原価法、製品・仕掛品は先入先出による原価法、貯蔵品は最終仕入原価法（いずれも、貸借対照表評価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ、1,341千円減少しております。

##### ③ リース取引に関する会計基準の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を第1四半期連結会計期間から早期適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が会計基準等適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、従来どおり、賃貸借に係る方法に準じた会計処理によっております。

これによる影響額は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	85,541	44,172
売掛金	1,979,631	413,315
商品及び製品	491,828	119,940
仕掛品	2,389	14,663
原材料及び貯蔵品	241,628	197,641
その他	40,357	11,218
貸倒引当金	△1,101	—
流動資産合計	2,840,274	800,950
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,936	59,508
機械装置及び運搬具（純額）	28,864	9,376
土地	1,493,013	1,493,013
リース資産（純額）	87,859	—
その他（純額）	32,135	46,402
有形固定資産合計	1,693,809	1,608,301
無形固定資産		
のれん	95,000	80,000
その他	9,765	13,197
無形固定資産合計	104,765	93,197
投資その他の資産		
投資有価証券	13,164	21,681
破産更生債権等	—	1,608
その他	10,071	13,772
貸倒引当金	—	△1,608
投資その他の資産合計	23,235	35,454
固定資産合計	1,821,810	1,736,953
資産合計	4,662,085	2,537,904

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,422,388	684,087
関係会社短期借入金	1,119,891	246,428
未払金	384,264	87,887
設備関係未払金	13,769	—
未払法人税等	10,364	14,859
リース債務	10,675	—
賞与引当金	46,177	68,425
その他	85,363	54,938
流動負債合計	3,092,894	1,156,626
固定負債		
退職給付引当金	27,390	38,878
役員退職慰労引当金	—	18,733
長期未払金	19,765	—
リース債務	80,207	—
繰延税金負債	2,387	4,512
その他	1,004	504
固定負債合計	130,754	62,628
負債合計	3,223,649	1,219,255
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,699,968	1,699,968
資本剰余金	909,840	909,840
利益剰余金	△1,158,834	△1,287,423
自己株式	△16,053	△14,758
株主資本合計	1,434,919	1,307,626
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,515	6,646
評価・換算差額等合計	3,515	6,646
少数株主持分	—	4,375
純資産合計	1,438,435	1,318,648
負債純資産合計	4,662,085	2,537,904

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	7,334,683
売上原価	6,408,430
売上総利益	926,253
販売費及び一般管理費	836,062
営業利益	90,190
営業外収益	
受取利息	399
受取配当金	176
受取手数料	2,813
協賛金収入	7,619
その他	3,300
営業外収益合計	14,309
営業外費用	
支払利息	5,135
支払手数料	1,713
その他	50
営業外費用合計	6,899
経常利益	97,599
特別利益	
受取保険金	5,387
特別利益合計	5,387
特別損失	
投資有価証券評価損	3,499
特別損失合計	3,499
税金等調整前四半期純利益	99,487
法人税、住民税及び事業税	6,926
法人税等合計	6,926
少数株主損失(△)	△4,375
四半期純利益	96,935

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	99,487
減価償却費	18,152
のれん償却額	35,000
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△506
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△11,488
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△18,733
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△18,407
有価証券及び投資有価証券評価損益 (△は益)	3,499
受取利息及び受取配当金	△576
支払利息	5,135
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,609,615
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△213,178
仕入債務の増減額 (△は減少)	753,255
未払債務の増減額 (△は減少)	362,044
長期未払金の増減額 (△は減少)	19,765
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△5,017
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△6,240
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	1,608
その他の資産の増減額 (△は増加)	△23,414
その他の負債の増減額 (△は減少)	18,720
小計	△590,510
利息及び配当金の受取額	576
利息の支払額	△4,846
法人税等の支払額	△10,207
営業活動によるキャッシュ・フロー	△604,987
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△16,220
営業譲受による支出	△246,013
その他	△2,008
投資活動によるキャッシュ・フロー	△264,242
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	916,154
リース債務の返済による支出	△2,058
自己株式の取得による支出	△1,295
財務活動によるキャッシュ・フロー	912,800
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	43,569
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	2,201
現金及び現金同等物の期首残高	44,172
現金及び現金同等物の四半期末残高	85,541

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### （4）継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度に50百万円の営業損失を計上し、営業キャッシュ・フローも95百万円のマイナスとなっており、当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しておりました。

当第3四半期連結累計期間におきましても、営業利益は90百万円の計上となりましたが、営業キャッシュ・フローは604百万円のマイナスとなっており、引き続き継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消するために、当第3四半期連結累計期間におきましては、平成20年10月1日に、親会社であるスターゼン株式会社のハムソーセージ・デリカ販売事業を承継し、当社に営業部を設置いたしました。これにより、加工食肉製品やデリカ商品の多様化を図り、生産部門と一体となって物流業務を集約しコストの削減を進め、栃木・埼玉両工場の生産設備の増強や省力化を目的とした投資を積極的に行っております。当第3四半期では、歳暮ギフトは残念ながら前年を下回る結果となりましたが、おせちや年末商材などが好調で、営業部が加わったこともあり、前年同期より売上高及び営業利益は大幅な増加となりました。しかしながら、営業キャッシュ・フローにつきましては、年末の販売増による一時的な売掛金の増加や、スターゼングループ内の回収・支払期日変更等により、マイナスとなりました。

第4四半期以降の当社グループは、景気後退が予想される事業環境ではありますが、消費者ニーズに沿った商品の提供を積極的に行うことで売上を拡大し、栃木・埼玉両工場では生産効率を向上させ原価低減を図るとともに、全社一丸となって一層の経費削減を進めております。資金面では、引き続きスターゼン株式会社の支援を得るとともに、資金管理システムを利用し、資金調達及び運用の効率化を図っております。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

加工食事業部門の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高及び営業利益の合計額に占める割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社の連結子会社でありましたローマイヤ販売株式会社は平成20年8月に引受先を当社の親会社であるスターゼン株式会社とする第三者割当増資を行なったことから、当社の持分比率が低下し、第2四半期会計期間の期首より連結の範囲から除外しております。この結果、利益剰余金が31,652千円増加しております。

なお、利益剰余金の当第3四半期連結累計期間の変動内容(要約)は以下のとおりです。

	利益剰余金
平成20年3月31日残高(千円)	△1,287,423
当第3四半期連結累計期間中の変動額	
四半期純利益	96,935
連結子会社の増資に伴う持分変動差額	65,322
連結除外に伴う利益剰余金減少高	△33,669
連結会計年度中の変動額合計(千円)	128,588
平成20年12月31日残高(千円)	△1,158,834

## 「参考資料」

## 前四半期に係る財務諸表等

## (1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前第3四半期連結累計期間 自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日
	金額(千円)
I 売上高	5,819,774
II 売上原価	4,915,106
売上総利益	904,667
III 販売費及び一般管理費	896,415
営業利益	8,252
IV 営業外収益	(7,085)
受取利息及び配当金	717
その他	6,367
V 営業外費用	(5,971)
支払利息	2,810
その他	3,160
経常利益	9,365
VI 特別利益	(6,984)
貸倒引当金戻入益	1,969
投資損失引当金戻入益	3,500
受取保険金	1,515
VII 特別損失	(24,649)
固定資産除却損	5,972
役員退職慰労引当金繰入額	15,227
本社移転費用	3,450
税金等調整前四半期純損失	8,298
税金費用	7,814
少数株主損失	17,705
四半期純利益	1,592

## (2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結累計期間 自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前第3四半期純損失	△8,298
減価償却費	26,900
のれん償却費	30,000
繰延資産償却費	2,267
貸倒引当金の減少額	△361
投資損失引当金の減少額	△3,500
退職給付引当金の減少額	△13,525
役員退職慰労引当金の増加額	17,851
賞与引当金の減少額	△39,519
固定資産除却損	5,972
受取利息及び受取配当金	△717
支払利息	2,810
売上債権の増加額	△647,188
たな卸資産の増加額	△18,704
仕入債務の増加額	359,810
未払債務の増加額	70,036
未払消費税の減少額	△29,404
破産更生債権等の増加額	△1,608
その他	△10,387
小計	△257,566
利息及び配当金の受取額	717
利息の支払額	△2,801
法人税等の支払額	△12,865
営業活動によるキャッシュ・フロー	△272,516

	前第3四半期連結累計期間 自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日
区分	金額 (千円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△14,517
短期貸付金の純減額	88,962
差入保証金の回収による収入	13,403
その他	△3,590
投資活動によるキャッシュ・フロー	84,258
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増額	206,442
自己株式の取得による支出	△1,847
財務活動によるキャッシュ・フロー	204,594
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	
V 現金及び現金同等物の増加額	16,336
VI 現金及び現金同等物の期首残高	66,505
VII 現金及び現金同等物の期末残高	82,841

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

加工食品部門の売上高及び営業損失の金額は、全セグメントの売上高の合計、営業損失の合計額に占める割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。